

◇編集後記◇

本号には、ワークファミリーコンフリクト尺度に関する論文が掲載されています。日本の女性労働者の葛藤は他国よりも大きいと指摘されていますが、実証データはあまり多くないようです。本論文で用いられた日本語版尺度が、この分野の研究の進展および対策に大きく貢献することを期待したいと思います。

JOHへの投稿は順調で、昨年1年間の投稿論文数は143編とほぼ前年並みでした。また昨年のJOH47巻の掲載論文数は73編でこれも前年とほぼ同様でした。掲載論文の第一著者の国別内訳を見ますと、日本36、国外37（中国8、台湾5、韓国、インド各4、トルコ3、タイ2など）となっています。JOHが国際誌としての役割を果たしており、また「アジアにおける産業衛生」という特色を保持していることがうかがわれます。今後も引き続きこのような特徴を維持し、質の高い論文を掲載すべく努力して参りたいと思います。

1年前より編集委員30名体制と強化されましたが、それでも編集委員1名あたりの査読論文数は平均で年間数編に及んでおります。編集委員以外の先生方にも査読をお願いする回数が増加し、一部の先生方にはご負担をおかけしていると思いますが、査読・編集活動は、学会を支える最も重要な活動の1つでありますので、よろしくご協力の程お願いいたします。

電子査読の導入についてですが、現在運用方法の細部につきまして検討を重ねております。なるべく今年度中に電子査読システムを導入すべく努力しておりますので、今しばらくお待ち下さい。なお導入時には、機関誌およびホームページ等にて周知徹底をはかる予定にしております。

今年度も、会員の皆様からの活発な御投稿をよろしくお願いいたします。

(竹下達也)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：竹下達也（和歌山医大）

副委員長：圓藤陽子（東京労災病院）、武林 亨（慶應大）、堤 明純（産業医大）、
本橋 豊（秋田大）、森 満（札幌医大）

荒木田美香子（大阪大）、有澤孝吉（徳島大）、市場正良（佐賀大）、掛本知里（東京女子医大）、上島通浩（名古屋大）、車谷典男（奈良医大）、甲田茂樹（労安研）、河野公一（大阪医大）、西條清史（金沢大）、榊原久孝（名古屋大）、澤田晋一（労安研）、塩飽邦憲（島根大）、笹島 茂（国立保健医療科学院）、埴田和史（滋賀医大）、谷川 武（筑波大）、錦戸典子（東海大）、橋本英樹（東京大）、濱田篤郎（海外勤務健康管理センター）、保利一（産業医大）、森戸裕子（金沢医大）、森田 学（北海道大）、森本泰夫（産業医大）、八幡勝也（ヒューマンメディア財団）、若林一郎（兵庫医大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番